

# しまくとぅばアーカイブ ロードマップ



令和4年2月

沖縄県文化観光スポーツ部

しまくとぅばアーカイブロードマップ  
～ 目次 ～

**I 総論：しまくとぅばの現状と県の取り組み**

1	しまくとぅばの現状	1
2	県におけるしまくとぅばに関する計画等	1
(1)	しまくとぅばの日に関する条例	1
(2)	「しまくとぅば」普及推進計画	1
(3)	沖縄21世紀ビジョン基本計画	2
(4)	新たな振興計画（素案）	2

**II しまくとぅばアーカイブロードマップ**

1	しまくとぅばアーカイブロードマップの目的等	3
2	しまくとぅばアーカイブにおける数値目標	4
3	ロードマップの期間	4
4	各取組における検討・整理事項	5
(1)	文法調査票の収集について	5
(2)	収録した文法調査票と連動した教材の作成について	5
(3)	しまくとぅばによる歌及び詩、小説、随筆、物語等について	6
(4)	しまくとぅばによる自然談話の収録について	7
5	実施体制及び関係機関等との連携	7
6	計画期間中における事業実施の考え方	8
(1)	文法調査票の収集について	8
(2)	収録した文法調査票と連動した教材の作成について	8
(3)	しまくとぅばによる歌及び文学的文章について	8
(4)	しまくとぅばによる自然談話の収録について	9
7	アーカイブ化後の活用について	9
(1)	公開について	9
(2)	教材の活用について	10
(3)	既存の収録済み題材について	10
参考資料1	ユネスコが認定した、日本における危機言語・方言の分布図	11
参考資料2	しまくとぅばアーカイブ事業における調査ポイント	12
参考資料3	しまくとぅばによる歌及び文学的文章の収録	14
参考資料4	しまくとぅばアーカイブ事業年度実施計画表	18

## I 総論：しまくとぅばの現状と県の取り組み

### 1 しまくとぅばの現状

しまくとぅばは、琉球舞踊や組踊、島唄等、地域の行事などに使用され、沖縄の文化の基層となるものであるが、明治期の「方言取締令」、昭和期の標準語強制や「方言撲滅運動」、沖縄戦の人的・文化財等の被害による地域の伝統行事等の衰退、さらには戦後の米国統治によるアメリカ文化の広がり等により、しまくとぅばを取り巻く環境は厳しい状況にあり、平成 21 年には、ユネスコが沖縄県内の 5 つの言語・方言を消滅の危機にあるものとして認定したところである。

### 2 県におけるしまくとぅばに関する計画等

#### (1) しまくとぅばの日に関する条例（平成18年3月 沖縄県条例第35号）

(趣旨)

第1条 県内各地域において世代を越えて受け継がれてきたしまくとぅばは、本県文化の基層であり、しまくとぅばを次世代へ継承していくことが重要であることにかんがみ、県民のしまくとぅばに対する関心と理解を深め、もってしまくとぅばの普及の促進を図るため、しまくとぅばの日を設ける。

(しまくとぅばの日)

第2条 しまくとぅばの日は、9月18日とする。

(事業)

第3条 県は、しまくとぅばの日の啓発に努めるとともに、その日を中心としてしまくとぅばの普及促進のための事業を行うものとする。

2 県は、市町村及び関係団体に対し、しまくとぅばの普及促進のための事業が行われるよう協力を求めるものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

#### (2) 「しまくとぅば」普及推進計画(平成25年度～平成34年度(令和4年度))

県民が自らの地域の「しまくとぅば」に誇りと愛着を持ち、家庭、学校、職場などの日常生活の中で使用され、将来に渡り、世代を超えて継承されていくことを目指して、今後も様々な施策の推進に取り組んでいく。

10年を3つの期間に分けた普及推進行動計画を策定

前期(気運醸成): H25～27

中期(普及促進): H28～30

後期(定着): R 1～4

【具体的な目標値】

①「しまくとぅば」を挨拶程度以上に使う人の割合

平成25年 58%→令和4年 88%(10年間で+30%)

②共通語と同じ以上に使う人の割合

平成25年 35.4%→令和4年 45.4%(10年間で+10%)

※令和3年度現在、県民及び県内の各業界・団体における「しまくとぅば」に対する意識の調査、取組の状況調査を実施しており、令和4年度には次期計画を策定する予定となっている。

### (3) 沖縄21世紀ビジョン基本計画【改定計画平成29年5月、沖縄県】抜粋

#### 第3章 基本施策

1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

#### (4) 伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造

沖縄文化の基層であり文化遺産として歴史的な価値を有する"しまくとぅば"については、市町村、教育機関、普及団体、企業、研究者等と"しまくとぅば"の積極的な活用による県民への定着に向けた連携体制を構築し、"しまくとぅば"の保存・普及・継承のための調査及び人材養成に取り組むほか、学校教育における幼児児童生徒に対応した教育プログラムの充実や生涯学習機会の提供などの学べる環境づくりに取り組みます。あわせて、若い人たちがしまくとぅばに接する機会を創出し、愛着を育むなど、消滅の危機にある言語の保存・普及・継承に努めます。

### (4) 新たな振興計画（素案）に対する答申（令和4年1月、沖縄県）抜粋

#### 第4章 基本施策

1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

#### (4) 沖縄文化の保全・継承・創造と更なる発展

#### ①各地域におけるしまくとぅばの保存・普及・継承の促進

言葉が生活又は文化芸術の基層をなし、文化そのものであることに鑑み、「しまくとぅばアーカイブ」の作成等により、消滅の危機にある各地域のしまくとぅばの保存及び継承に取り組めます。また、しまくとぅば普及の中核的機能を担う「しまくとぅば普及センター」を中心に、関係機関や関係団体と連携を図りながら、各地域のしまくとぅば養成講座や出前講座の実施に取り組めます。さらに、小・中学校や高等学校でのしまくとぅば教材を活用した学習活動への支援など、しまくとぅばの普及に取り組むとともに、各地域でしまくとぅばの普及に取り組む団体や民間企業等への支援を通して、県民のしまくとぅばを聞く機会や話す機会の創出に取り組めます。

## Ⅱ しまくとぅばアーカイブロードマップ

### 1 しまくとぅばアーカイブロードマップの目的等

沖縄文化の基層であるしまくとぅばが消滅すると、沖縄の組踊や琉球舞踊、島唄等も衰退するとともに、県民の郷土愛等も失われ、結果的に沖縄文化の衰退へと繋がるものと危惧される。

ユネスコは、平成 21 年 2 月、八重山、与那国、国頭、沖縄、宮古の方言・言語を消滅の危機にあるものとして認定（※参考資料 1）している。

また、県の令和 2 年度「しまくとぅば県民意識調査」では「しまくとぅばを主に使う」人は 70 代以上の高齢者層であるなど、しまくとぅばの保存は喫緊の課題である。

そのため、しまくとぅばを主に話す世代がいる間に、しまくとぅばを保存するとともに、次世代へ継承するための取組が必要であることから、アーカイブ化のために実施すべき取組と目標及びその実現までの行程を示す「しまくとぅばアーカイブロードマップ」（以下、「ロードマップ」という。）を策定するものとする。

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が平成 21 年 2 月に発表した“Atlas of the World’s Languages in Danger”（第 3 版）

【重大な危機】八重山語（八重山方言）、与那国語（与那国方言）

【危険】国頭語（国頭方言）、沖縄語（沖縄方言）、宮古語（宮古方言）

※ユネスコでは「言語」と「方言」を区別せず、全て「言語」で統一しています。

○しまくとぅばの使用頻度（県の令和 2 年度「しまくとぅば県民意識調査」）

#### 【全体】

- ・「主に使う」= 3.6 %
- ・「共通語と同じくらい使う」  
= 17.7 %
- ・「挨拶程度使う」= 21.9

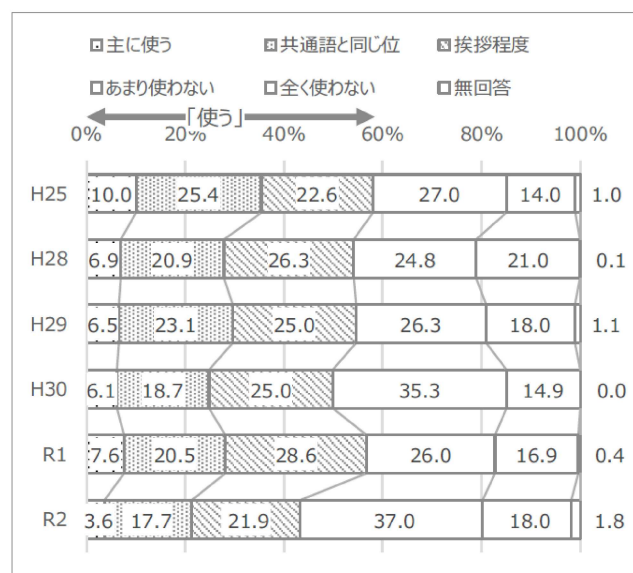
#### 【合計】

- ・「挨拶程度以上使う」= 43.2 %

※過去調査と比較すると使用頻度は最も低くなっている。

- H25 58.0%
- H28 54.1%
- H29 54.6%
- H30 56.7%
- R1 56.7%
- R2 43.2%

#### 〈しまくとぅばの使用頻度推移〉



<年代>									
10代 (n=42)	5.3	4.5	13.8		50.5			25.9	
20代 (n=182)	1.1	7.8	18.0		42.7		27.4		2.9
30代 (n=223)	0.5								
	5.4		25.1		42.4		25.7		0.9
40代 (n=352)	0.6	9.6		25.7		43.5		19.7	0.9
50代 (n=357)	1.7	12.2		23.6		41.1		18.8	2.5
60代 (n=415)			4.4	23.5		21.6		34.9	13.7
									2.0
70歳以上 (n=449)			8.9		34.5		18.3	24.5	11.7
									2.1

※左から 主に使う、共通語と同じくらい、挨拶程度、あまり使わない、全く使わない、無回答

#### 【年代別】

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| ○最も低い → 10代       | ○最も高い → 70代        |
| ・主に使う 5.3%        | ・主に使う 8.9%         |
| ・共通語と同じくらい使う 4.5% | ・共通語と同じくらい使う 34.5% |
| ・挨拶程度使う 13.8%     | ・挨拶程度使う 18.3%      |
| ・合計 23.6%         | ・合計 61.7%          |

※最も高い70歳以上と10代を比較すると38.1%と大きな差があった。

## 2 しまくとぅばアーカイブロードマップにおける数値目標

- ① しまくとぅばによる文法調査票の収集地域：44 地域
- ② 収集した文法調査票と連動した教材の作成：36 種類  
 小学校用3種（低学年・中学年・高学年）×9地域＝27種類  
 中学校用1種 ×9地域＝9種類
- ③ しまくとぅばによる歌の収録：196 曲以上  
 小学校用3曲（低学年・中学年・高学年）×49地域＝147曲  
 中学校用1曲 ×49地域＝49曲
- ④ しまくとぅばによる詩、小説、随筆、物語等の収録：196 編以上  
 小学校用3編（低学年・中学年・高学年）×49地域＝147編  
 中学校用1編 ×49地域＝49編
- ⑤ しまくとぅばによる自然談話の収録：10 話以上  
 5地域（国頭、沖縄、宮古、八重山、与那国）×2話＝10話

## 3 ロードマップの期間

ロードマップの対象期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とする。

## 4 各取組における検討・整理事項

### (1) 文法調査票の収集について

#### ①収集する文法調査票（会話例）

しまくとうばの保存、継承には、言語学に裏打ちされた体系的な言語教育（文字指導、発音指導、語彙指導、文法指導）が重要であることから、必要な文法的事項が織り込まれたしまくとうばの文法調査票を使用して収集する。

使用する調査票は、各収集地域で共通のものとし、文化庁における先行事例として実施されている「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」において使用している調査票をベースとする。

〈使用する文法調査票〉

- ・動詞活用調査票（212件）
- ・動詞活用型調査票（176件）
- ・形容詞活用調査票（143件）
- ・形容詞語彙調査票（136件）
- ・名詞形態論調査票（115件）
- ・存在動詞活用調査票（78件）

#### ②調査対象地点（※参考資料2）

収集する地域は、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語が使用される県内5地域で行うものとし、地方行政区画 便覧（1886）における間切及び有人離島を加えた81地域をベースとし、以下に留意の上、実施地域（44地域）を選定するものとする。

ア 各間切から1地域、離島から1地域を原則とする。

イ 文化庁において既に収集した地域及び今後実施地域は除く。

※文化庁では調査対象をより消滅の危険度が高い極小離島を優先して収集

※文化庁事業では、沖縄だけでなく奄美群島、八丈島・青ヶ島を対象としており、令和4年度からは、調査対象を東日本大震災の被災地（5県）へも拡大するため、沖縄県内の調査地点が今後減少することが想定されるため、文化庁とも調整しながら、必要に応じて離島も県の調査対象に加える。

ウ 他機関（琉球大学及び市町村等）において既に同調査票に基づき収集された地域は除く。

エ 上記アからウ以外の地域について県事業として収集を行い、全ての地域において文法調査票の収集を行う。

#### ③収録方法：音声収録（記録する文字は、国際音声記号及び令和3年度に検討委員会において検討中の県表記法（仮称）とする。）

#### ④調査方法：調査員による現地調査

### (2) 収集した文法調査票と連動した教材の作成について

教材については、小・中学校での使用を想定し、収録した文法調査票と連動したものとし、次のとおり作成する。

#### ①作成する教材は以下で1セットとする。

- ア 教材用テキスト
- イ 教師用手引き

## ウ 指導案

### ②教材1セットを作成する種類

#### ア 小学校用3種

「小学生のためのしまくとうば（低学年用）」－〇〇〇（地域名）」

「小学生のためのしまくとうば（中学年用）」－〇〇〇（地域名）」

「小学生のためのしまくとうば（高学年用）」－〇〇〇（地域名）」

#### イ 中学校用1種

「中学生のためのしまくとうば」－〇〇〇（地域名）」

### ③教材を作成する地域

教材を作成するためには、言語研究の質と量が十分であること及び教育機関の協力が不可欠であることから、言語研究やしまくとうば教育が先行している次の9地域においてモデル的に作成する。

- 1) 沖縄北部 今帰仁村（今帰仁間切 今帰仁村）
- 2) 沖縄北部 伊是名村（伊平屋間切 伊是名村）
- 3) 沖縄中南部 恩納村（恩納間切 恩納村）
- 4) 沖縄中南部 南城市（大里間切 大里村）
- 5) 宮古地区 宮古島市（砂川間切 平良村）
- 6) 宮古地区 多良間村（多良間間切 平良村（多良間））
- 7) 八重山地区 石垣市（石垣間切 八重山村（石垣市））
- 8) 八重山地区 竹富町（石垣間切 竹富島）
- 9) 与那国 与那国町（与那国島 八重山村（与那国町））

※将来的には、今回作成する教材をベースに、全地域での教材化を目指し、引き続き検討を行う。

### ④作成する教材の媒体

作成する教材については、小・中学校において、より効果的に音声と連動した学びが行えるよう、タブレット端末等での使用を想定し、電子版（可能であればアプリ）での提供を基本とし、紙媒体での配布は想定しない。

## (3) しまくとうばによる歌及び詩、小説、随筆、物語等について

児童・生徒をはじめ一般的に皆がよく知る歌や詩、小説、随筆、物語等をしまくとうばにすることは、その歌詞や物語の内容等の意味を理解していることから、解説無しに理解することが可能であり、しまくとうばの習得には有用であると考えられることから次のとおり収集を行う。

### ①収集する題材（例示：※参考資料3）

#### ア 歌

- ・小・中学校の音楽の教科書に掲載されているもの
- ・教科書に掲載されているもの以外で、学校行事（学習発表会、運動会等）での活用が期待されるもの

#### イ 詩、小説、随筆、物語等（以下、「文学的文章」という。）

- ・小・中学校の国語の教科書に掲載されているもの
- ・教科書に掲載されているもの以外で、学校行事（学習発表会、行事等）での活用が期待されるもの



## ②選定方法

収録する歌及び文学的文章については、県教育委員会又は市町村教育委員会等の意見を踏まえ、しまくとぅばの理解を促進するような題材を選定する。

## ③収録する歌及び文学的文章の種類

ア 歌：小学校3曲、中学校1曲を目安に4曲以上

イ 文学的文章：小学校3編、中学校1編を目安に4編以上

## ④収録方法：音声収録

## ⑤収集地域（歌及び文学的文章共通）

ア 県が文法調査票を収集する44地域

イ 教材を作成する9地点のうち、文化庁等で実施する5地域 計49地域

## (4) しまくとぅばによる自然談話の収録について

ことばは、共同生活を行っていく中で継承、蓄積され、社会の発展とともに変化してきた社会的かつ歴史的な存在であることから、地域の人々がその土地の自然とどのように関わり認識したのか、どのような社会生活を送って暮らしてきたのかを保存するため、各地域のしまくとぅばで自然談話の収録を行う。

①収集する話者及びテーマの候補については、各市町村教育委員会や各地域の文化協会等を通して情報収集を行う。

②収録方法：映像及び音声収録

〈自然談話におけるテーマ例〉

・幼い頃の島の生活 ・祭（行事） ・親の生産活動の状況 等

## 5 実施体制及び関係機関等との連携

### 〈実施体制〉

しまくとぅばアーカイブについては、文法調査票や収録する歌、文学的文章のしまくとぅばへの文法的な精査も含めた翻訳や自然談話の文字化等、言語学的な専門知識が求められることに加えて、話者が減少しつつある現状では地域との信頼関係に基づく早期の調査が求められる。

そのため、調査の実施にあたっては、言語学者等の人材を有し、事業実施のためのノウハウを有している必要がある。

国立大学琉球大学については、県内でもしまくとぅばに関し実績のある言語学者を有しており、文化庁における消滅危機言語に関する事業の受託実績をとおした県内外の言語学者とのネットワーク及び事業実施のノウハウを有している。そのため、当事業について、短期間で迅速且つ多くの作業を的確に実施できるのは、同大学しかないものと考えられる。

### 〈関係機関との連携〉

しまくとぅばについては、市町村、教育機関及び各地域の文化協会等との連携体制を構築し、しまくとぅばの保存・普及・継承のための人材養成、学校教育における活用などの学べる環境づくり、しまくとぅばを話す機会や聞く機会の創出等を図っていくことが重要であることから、アーカイブ事業の実施にあたっては十分連携を取りながら進める必要がある。

## 6 計画期間中における事業実施の考え方（全体図は※参考資料4）

### (1) 文法調査票の収集について(R4~R7)

文法調査票の収集については、調査予定の各 44 地域において、6 種類の調査票について、各年度次のとおり実施する。



4年間で、各地域6種類の文法調査票を収集

### (2) 収集した文法調査票と連動した教材の作成について (R4~R8)

#### ①教材のひな形の作成 (R4 ~ R7)

R4 小学生（中学年用）教材のひな形作成

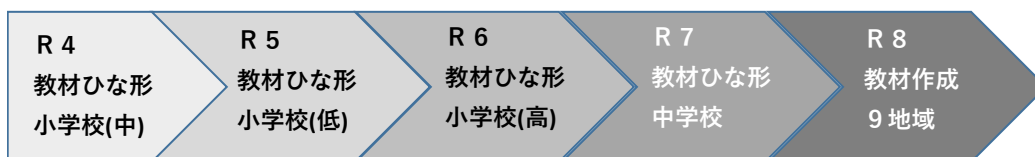
R5 小学生（低学年用）教材のひな形作成

R6 小学生（高学年用）教材のひな形作成

R7 小学生（中学年用）教材のひな形作成

#### ②モデルとなる9地域の教材の作成 (R8)

教材全体の内容調整及びテキスト化



### (3) しまくとぅばによる歌及び文学的文章について (R4~R7)

#### ①歌については、49 地域において小学校 3 曲、中学校 1 曲を目安に 4 曲以上



4年間で4曲以上（それぞれ49地域 計196曲以上）を収録

#### ②文学的文章については、49 地点において小学校 3 編、中学校 1 編を目安に 4 編以上

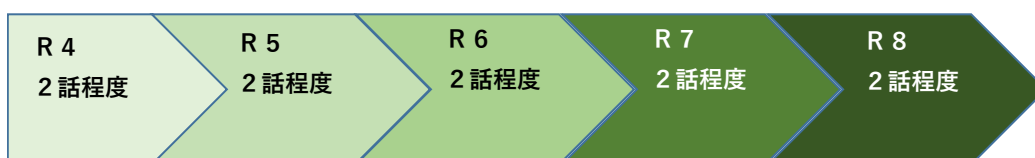


4年間で4編（それぞれ49地域 計196編以上）を収録

#### (4) しまくとぅばによる自然談話の収録について

自然談話については、各年度2話程度の収録とする。

実施地域については、話者の確保及び収録内容の調整状況により決定する。



5年間で10話以上の収録を目指す。

### 7 アーカイブ化後の活用等について

#### (1) 公開について

公開については、順次、以下のとおり公開を行う

公開場所：しまくとぅば普及センター HP（しまくとぅばナビ）及び琉球大学

##### ① 文法調査票について

各地域のしまくとぅばの違いが比較できるように、各年度末までに収集した文法調査票を一覧形式で掲載

公開時期については、次のとおり

R 4年度調査 → R 5年度公開

R 5年度調査 → R 6年度公開

R 6年度調査 → R 7年度公開

R 7年度調査 → R 8年度公開

[イメージ]

市町村	間切	旧市町村名+離島 (調査地点)	動詞活用調査票	動詞活用型 調査票	形容詞活用 調査票	形容詞語彙 調査票	名詞形態論 調査票	存在動詞活用 調査票
名護市 63,389人	名護	名護村	R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開
		羽地	R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開
	久志	屋我地島	R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開
		久志村	R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開
東村 1,764人			R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開
.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.
与那国町 1,716人	与那国島	与那国町	R5公開	R 5 公開	R 6 公開	R 6 公開	R 7 公開	R8公開

②歌及び文学的文章並びに自然談話について

各地域のしまくとぅばの違いが比較できるよう、各年度末までに収集した歌及び文学的文章並びに自然談話を一覧形式で掲載

R 4 年度収集 → R 5 年度公開

R 5 年度収集 → R 6 年度公開

R 6 年度収集 → R 7 年度公開

R 7 年度収集 → R 8 年度公開

※ただし、R 8 年度収録の自然談話については R 8 年度公開

[イメージ]

市町村	間切	旧市町村名+離島 (調査地点)	小学校歌① 〇〇〇	小学校歌② 〇〇〇	小学校歌③ 〇〇〇	中学校歌① 〇〇〇	小学校文章 ① 〇〇〇	小学校文章 ② 〇〇〇	小学校文章 ③ 〇〇〇	中学校文章 ① 〇〇〇
名護市 63,389人	名護	名護村	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開
	羽地	羽地村	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開
		屋我地島	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開
東村 1,764人	久志	久志村	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開
			R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
与那国町 1,716人	与那国島	与那国町	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開	R5公開	R6公開	R7公開	R8公開

(2) 教材等の活用について

収集した文法調査票を基に作成した教材については、R8 年度に電子版（可能であればアプリ）として公開するとともに、小・中学校及びしまくとぅば普及センターでの活用に取り組む。

①小・中学校における活用について

小・中学校の国語、音楽、総合学習等での参考教材として活用

目標：モデル的に作成する9地域での活用及び実証

※将来的には、県内全域での活用を目指し、現在使用中の「しまくとぅば読本」からの置き換わりを検討

②しまくとぅば普及センターにおける活用について

センターでは、アーカイブ化と連動して、普及促進のための各種取組を実施

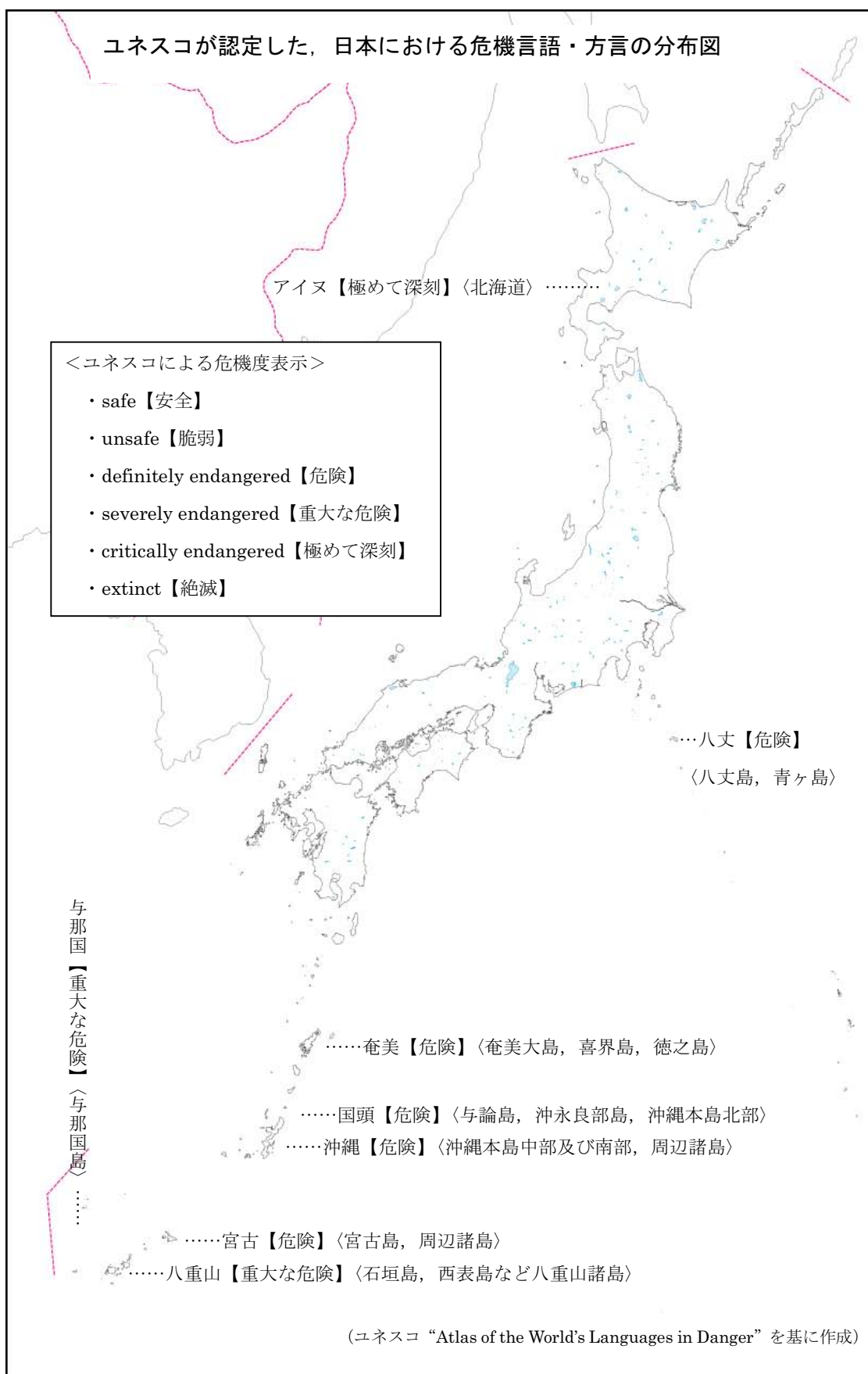
例：○センターの実施する講師派遣を活用した教材使用の促進

（学校でのモデル事業における話者の派遣、センター独自講座での活用）

○しまくとぅばの多様性や、教育現場での活用等、普及促進に係るシンポジウム 等

(3) 既存の収録済み題材について

県、市町村及び関係団体並びに民間等における既存の収録済み題材（民話、島唄、伝統芸能、その他メディア収録物等）に係る調査及び収集については、今後の課題とするが、県に対して提供のあった題材については、リスト化や公開等について積極的に検討を行うものとする。



しまくとぅばアーカイブ事業における調査地域

		市町村	間切	旧市町村名+離島 (調査地域)	離島	消滅 危機度	調査票		教材 県	文章 県	歌 県					
							うち 県	うち 国等								
1	1	名護市 63,389人	名護	名護村		1.8	○			○	○					
2			羽地	羽地村		1.8	○			○	○					
3			久志	屋我地島	架橋				○							
4				久志村			1.8		○							
5	2	東村 1,764人														
5	3	国頭村 4,673人	国頭	国頭村		1.8	○			○	○					
6	4	大宜味村 3,067人	大宜味	大宜味村		1.8	○			○	○					
7	5	今帰仁村 9,356人	今帰仁	今帰仁村		1.8	○		○	○	○					
8			古宇利島	架橋		1.3		△								
9	6	本部町 13,191人	本部※1	本部村(旧上本部村)		1.8	○			○	○					
10				本部村(旧本部町)		1.8	○				○	○				
11				瀬底島	架橋		1.3		△							
12	7	恩納村 11,064人	恩納	恩納村		1.8		□	○	○	○					
13	8	宜野座村 6,106人	金武※2	宜野座村		1.8	○									
14				金武町 11,455人	金武村		1.8		▽							
15	10	伊江村 4,524人	伊江島	伊江村	離島	1.3		◎								
16	11	伊平屋村 1,231人	伊平屋島	伊平屋村	離島	1.3		◎								
17				野甫島	離島	1.3		△								
18	12	伊是名村 1,408人		伊是名村	離島	1.3		◎	○	○	○					
19	13	宜野湾市 99,678人	宜野湾	宜野湾村		1.8	○			○	○					
20	14	浦添市 115,340人	浦添	浦添村		1.8	○			○	○					
21	15	沖繩市 142,634人	越来	越来村		1.8	○			○	○					
22			美里	美里村(旧石川市含む)		1.8	○				○	○				
23	16	うるま市 124,457人	具志川	具志川村		1.8	○			○	○					
24				勝連	勝連村		1.8	○				○	○			
25			与那城	津堅島	離島	1.3		△								
26				与那城村		1.8	○				○	○				
27				平安座島	架橋	1.3		△								
28				伊計島	架橋	1.3		△								
29				宮城島	架橋	1.3		○								
30				浜比嘉島	架橋	1.3		△								
31			17	読谷村 41,481人	読谷山	読谷村		1.8	○			○	○			
32			18	嘉手納町 13,524人	北谷	北谷村		1.8	○			○	○			
19	北谷町 28,812人															
33	20	北中城村 17,510人	中城	中城村		1.8	○			○	○					
21					中城村 21,762人											
34	22	西原町 35,451人	西原	西原村(末吉含む) 首里区(平良・石嶺)		1.8	○			○	○					
35	23	那覇市 322,011人	首里※3	首里区(平良・石嶺除く)		1.8	○			○	○					
36				那覇市 真和志	真和志村											
37				小禄	小禄村											
38	24	糸満市 62,191人	兼城	糸満町		1.8	○			○	○					
39				兼城村												
40				高嶺	高嶺村				1.8			○			○	○
41				真壁	真壁村				1.8			○			○	○
42				摩文仁	摩文仁村				1.8			○			○	○
43	25	豊見城市 64,953人	豊見城	喜屋武	喜屋武村		1.8	○		○	○					
44				豊見城村		1.8	○			○	○					
45				玉城	玉城村		1.8	○		△		○	○			
46				奥武島		1.8		△								
47				知念	知念村		1.8	○			○	○				
48	26	南城市 44,245人		久高島	離島	1.3		△								
49				佐敷	佐敷村		1.8	○			○	○				

しまくとぅばアーカイブ事業における調査地域

		市町村	間切	旧市町村名+離島 (調査地域)	離島	消滅 危機度	調査票		教材 県	文章 県	歌 県		
							うち 県	うち 国等					
48	27	与那原町 19,982人	大里	大里村		1.8	○		○	○	○		
49							28	南風原町 39,905人	南風原	南風原村		○	
50	29	渡嘉敷村 711人	渡嘉敷 ※4	渡嘉敷村	離島	1.3	○			○	○		
51	30	座間味村 914人	座間味 ※4	座間味島	離島	1.3	○			○	○		
52				阿嘉島	離島	1.3		△					
53				慶留間島	離島	1.3		△					
54	31	粟国村 696人	粟国	粟国村	離島	1.3		◎					
55	32	渡名喜村 356人	渡名喜島	渡名喜村	離島	1.3		△					
	33	南大東村 1,262人											
	34	北大東村 589人											
56	35	久米島町 7,772人	仲里	仲里村	離島	1.3	○			○	○		
57				具志川	具志川村(黒島除く)	離島	1.3	○			○	○	
58				鳥島	具志川村(鳥島)	離島	1.3		△				
59	36	八重瀬町 31,537人	東風平	東風平村		1.8	○			○	○		
60				具志頭	具志頭村		1.8	○			○	○	
61	37	宮古島市 55,424人	平良	平良村(下記以外)	離島	1.3	○			○	○		
62				城辺村(比嘉、仲間)	離島	1.3		◎					
63				大神島	離島	1.3		◎					
				池間島	離島	1.3		◎					
64				砂川	平良村(西里、下里、松原)	離島	1.3		◎	○	○	○	
65				下地	下地村	離島	1.3	○				○	○
66					平良村(久貝)	離島	1.3	○				○	○
67					伊良部村(島)	離島	1.3	○				○	○
68	38	多良間村 1,122人	多良間	来間島	離島	1.3		○					
69				平良村(多良間)	離島	1.3	○		○	○	○		
70	39	石垣市 49,824人	石垣	八重山村(旧石垣市、竹富)	離島	1.3		◎	○	○	○		
71				宮良間	八重山村(旧大浜町の一部)	離島	1.3		◎				
72				大浜	八重山村(旧大浜町の一部)	離島	1.3		◎				
73	40	竹富町 4,343人	※5	竹富島	離島	1.3		◎	○	○	○		
74				波照間島	離島	1.3		◎					
75				鳩間島	離島	1.3		△					
76				西表島(西部)	離島	1.3		△					
77				西表島(東部)	離島	1.3	○				○	○	
78				小浜島	離島	1.3	○				○	○	
79				新城島	離島	1.3		△					
80				黒島	離島	1.3		△					
81	41	与那国 与那国町 1,716人	与那国島	八重山村(与那国町)	離島	1.3		○	○	○	○		

(53)

(81)

(44)

(37)

(9)

(49)

(49)

国等：◎国調査済み ○国調査中 △国調査予定 ▽科研費(琉大)調査済み □市町村調査済み

・消滅危機度についてはユネスコの消滅危機言語に関する専門家グループが2003年に発表した「言語の活力と危機(Language Vitality and Endangerment)」に示される9つの項目(基準)に基づいてなされている。

・「0」はその言語が消滅していることを示し、「5」はその言語が安泰であることを示す。

・数字が小さいほど危機的である。

・個々の数値は琉球大学・国際沖縄研究所が2014年3月に発表した『文化庁委託事業報告書危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究(八丈方言・国頭方言・沖縄方言・八重山方言)』の数値を参考している。

・なお、危機度の判定から7年以上が経過しているので、実際にはさらに数値が下がっていることが予想される。

※1 本部間切: 明治以降の移住者が多い本部地区と上本部地区は言語差が大きいため別とする。

※2 金武間切: 金武町と宜野座村は言語差が大きいため別とする。

※3 首里、那覇、真和志間切: 言語差が小さいため調査地域は1つとする。

※4 渡嘉敷村及び座間味村は離島であるが、1間切り1自治体を構成しているため県事業で調査する。

※5 竹富町については、離島で構成されているが、1自治体として調査地域を設ける。

※出典(平凡社 日本歴史地名体系第48巻 沖縄県の地名)

間切: 地方行政区画便覧(1886)

旧市町村 沖縄県及び島嶼町村制施行による町村名(1908)

※市町村人数(沖縄県市町村課発行 沖縄県市町村概要 R2.1.1時点住民基本台帳人口)

しまくとぅばによる歌の収録（小学校）

教科書掲載

タイトル	学年	R 3 使用教科書における掲載の有無		
		教育芸術社 小学生の音楽	教育出版 音楽のおくりもの	備考
かたつむり	1	○	○	文部省唱歌・季節の歌としてよく歌われる
うみ	1	○	○	文部省唱歌・季節の歌としてよく歌われる
いぬのおまわりさん	1	○	○	子どもな好きな歌、歌詞をよく覚えている
とんぼのめがね	2	○	○	子どもな好きな歌、歌詞をよく覚えている
かくれんぼ	2	○	○	文部省唱歌・学年はじめに歌う・掛け合いが楽しい
手のひらを太陽に	2	○		音楽集会でよく歌われる
ありがとうの花	3	○（5年）	○	幼児期より多く歌われている。
ゴーゴーゴー	3	○		多くの学校で「運動会」に使用
おかしなすきなまほう使い	3	○		音楽集会でよく歌われる。ナレーション付き
ゆかいに歩けば	4	○	○	子どもな好きな歌、歌詞をよく覚えている
子どもの世界	4	○	○（3年）	学芸会でよく歌われる。
いろいろな木の実	4	○	—	学芸会でよく歌われる。
待ちぼうけ	5	○	—	北原白秋と山田耕筰の名曲
さんぼ	5	○（1年）	○	学芸会でよく歌われる。ジブリ「となりのトトロ」
ビリーブ	5	○		学芸会や音楽発表会でよく歌われる
野にさく花のように	6		○	音楽集会でよく歌われる。手話にすることが多い
語り合おう	6		○	学芸会や音楽発表会でよく歌われる
あすという日が	6	○		復興ソングとして歌われた。

※（ ）書きは掲載学年

特記事項及び教科書以外からの歌等

タイトル	備考

教育庁からの意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校期の子供達は、楽譜や歌詞を見て歌うというよりは耳で聴いて歌うことが多い</li> <li>・そのため、童謡や歌詞のわかりやすい曲の方がしまくとぅばに直して歌うのに向いているのではないかと。</li> <li>・選出した曲は集会や授業参観等、他者へ聴かせる曲として扱われることが多い曲である。</li> </ul>
---



しまくとぅばによる歌の収録（中学校）

教科書掲載

タイトル	学年	R 3 使用教科書における掲載の有無		
		教育芸術社 小学生の音楽	教育出版 音楽のおくりもの	備考
上を向いて歩こう	1	○		子ども達になじみのある曲
エーデルワイス	1	○		小学校でも既習の曲、3拍子で覚えやすい
赤とんぼ	1	○	○	日本の名曲。季節の曲として歌われることが多い。
語り合おう	2		○	子ども達が好きな曲、「劇団四季」、合唱曲
HEIWAの鐘	2		○	中学校の平和集会で歌われる。（作曲者は沖縄県出身）
やさしさに包まれたなら	2	○		子ども達に親しみやすい。ジブリ「魔女の宅急便」
ふるさと	3	○	○	小学校でも既習の曲、日本を代表する曲
花は咲く	3	○		NHK復興ソング、旋律が美しく歌いやすい
Let it be	3	○		ビートルズの名曲

※（ ）書きは掲載学年

特記事項及び教科書以外からの歌等

タイトル	備考

教育庁からの意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校で歌う曲は落ち着いた旋律の曲が多い。</li> <li>・ 「語り合おう」や「やさしさに包まれたなら」は明るい曲調でテンポがよく歌いやすい。 （しまくとぅばに直しても歌いやすいのではないか）</li> <li>・ 「HEIWAの鐘」は平和集会や合唱コンクール等様々な場面で歌われているなじみのある曲</li> <li>・ 「Let it be」は外国曲であるが、旋律が易しいので比較的歌いやすい曲</li> </ul>
---

しまくとぅばによる文学的文章の収録（小学校）

教科書掲載

タイトル	学年	R 3 使用教科書における掲載の有無				備考
		教育出版 ひろがることば	光村 ともだち他	東京出版 新しい国語	学校図書 こくご他	
くまさんとありさんのごあいさつ	1	○				
はなのみち	1		○			
たぬきのじてんしゃ	1				○	
けむりのきしゃ	1	○				
おおきなかぶ	1	○	○	○	○	
おむすびころりん	1		○			
たぬきの糸車	1		○			
ありがとう	1			○		
ろくべえまってよ	1				○	
けんかした山	1	○				
あめのうた	1	○				詩
スイミー	1	○		○	○	
おてがみ	1	○	○（2年）	○（2年）	○（2年）	
ないた赤おに	2	○				
スーホの白い馬	2		○			
せかいじゅうの海が	2	○				詩
かさこじぞう	2	○		○	○	
アレクサンダとぜんまいねずみ	2	○				
うみ	2			○		詩
ちいさい おおきい	2	○				詩
わたしと小鳥とすずと	3		○			詩
あらしの夜に	3				○	
モチモチの木	3	○	○	○	○	
おにたのぼうし	3	○				
三年とうげ	3		○			
春のうた	4	○	○		○	詩
ぞろぞろ（落語）	4	○				
ごんぎつね	4	○	○	○	○	
水のこころ	5		○	○		詩
注文の多い料理店	5				○	
木造じいさんとがん	5	○	○	○	○	
春はあけぼの	6	○	○	○		
イナゴ	6	○				詩
きつねの窓	6	○			○	
サボテンの花	6		○	○		
春に	6		○	○		詩

※（ ）書きは掲載学年

その他

タイトル	備考
ももたろう	日本の童話の代表作であり、児童は既に内容を理解している。
うらしまたろう	日本の童話の代表作であり、児童は既に内容を理解している。
ブレーメンのおんがくたい	日本の昔話の代表作であり、児童は既に内容を理解している。
3匹のこぶた	日本の昔話の代表作であり、児童は既に内容を理解している。
かぐやひめ	5年生の教科書「竹取物語」との聞き比べとして興味を引く

しまくとぅばによる文学的文章の収録（中学校）

教科書掲載

タイトル	学年	R 3使用教科書における掲載の有無				備考
		教育出版 ひろがることば	光村 ともだち他	東京出版 新しい国語	学校図書 こくご他	
蜘蛛の糸 芥川龍之介	1	○				
オツベルと像 宮沢賢治	1	○				
少年の日の思い出 ヘルマンヘッセ	1	○	○	○	○	
朝のリレー 谷川俊太郎	1		○	○		詩
空中ブランコ乗りのキキ 別役実	1		○			
トロッコ 芥川龍之介	1		○		○	
大人になれなかった弟たち 米倉斉加年	1			○		
わたしの中にも 新川和江	1				○	詩
夏の葬式 山川方夫	2	○				
走れメロス 太宰治	2	○	○	○	○	
字のない葉書 向田邦子	2	○	○（1年）	○	○	
名づけられた葉 新川和江	2		○			詩
大阿蘇 三好達治	2		○	○（1年）		詩
月夜の浜辺 中原中也	2			○	○（1年）	詩
木 田村隆一	2			○		詩
わたしが一番きれいだったとき 茨木のり子	2				○	詩
初恋 島村藤村	3	○	○	○		詩
故郷 魯迅	3	○	○	○	○	
坊っちゃん 夏目漱石	3	○（2年）	○	○（1年）	○（2年）	
高瀬舟 森鴎外	3		○			
握手 井上ひさし	3		○	○		
私を束ねないで 新川和江	3			○		詩
生命は 吉野弘	3				○	詩
形 菊池寛	3			○（2年）	○	
レモン哀歌 高村光太郎	3				○	詩

※（ ）書きは掲載学年

その他

タイトル	備考

しまくとぅばアーカイブ事業年度実施計画表

事項	年度	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	数値目標	
調査票の収集	動詞活用調査票	44地域					しまくとぅばによる文法調査票の収集地域：44地域 調査票 6種類	
	動詞活用型調査票			44地域				
	形容詞活用調査票	44地域						
	形容詞語彙調査票			44地域				
	名詞形態論調査票	44地域						
	存在動詞活用調査票				44地域			
	小学校（低）ひな形							
教材の作成	小学校（中）ひな形						収集した文法調査票と連動した教材の作成：36種類 小学校用3種（低学年・中学年・高学年）×9地域=27種類 中学校用1種×9地域=9種類	
	小学校（高）ひな形							
	中学校ひな形							
	モデル9地点の教材		随時、文法調査との連動作業及び解説等作成			電子版テキストの作成		
	しまくとぅばによる歌の収録	小学校①×49地域	小学校2②×49地域	小学校③×49地域	中学校×49地域			歌の収録：196曲以上
	しまくとぅばによる文学的文章の収録	小学校①×49地域	小学校2②×49地域	小学校③×49地域	中学校×49地域			詩、小説、随筆、物語等の収録：196編以上
	しまくとぅばによる自然会話の収録	2話程度	2話程度	2話程度	2話程度	2話程度		自然談話の収録：10話以上